

平成30年度第4回西脇市教育振興基本計画策定会議 議事録

日 時：平成31年3月4日(月) 午前10時～午前11時45分終了

場 所：西脇市生涯まちづくりセンター2階 会議室2

出席委員：10名

事務局：11名（教育長、教育部長、教育委員会参事、教育総務課長
学校給食センター所長、学校教育課長、学校教育課主幹兼
教育研究室長、幼保連携課長、人権教育課長、生涯学習課
長、スポーツ振興室長）

傍聴者：3名

1 開 会

2 あいさつ

3 議事

(1) 西脇市教育振興基本計画の策定について

ア パブリック・コメントの結果について（資料1）

イ 用語解説について（資料2）

ウ 測定指標について ※資料（計画等最終版）当日配付

(2) 今後の予定等について（資料3）

4 その他

<会長>

本日は足元が悪い中、早朝からお集まりいただきましてありがとうございます。教育振興計画における最後のまとめの会議になります。言うまでもなく、西脇市の教育の方向性を決める重要な会議となるので、ぜひいつも通り忌憚のない意見をいただいて、良い案にして、西脇市の今後の教育をより意義のあるものにしていきたいと思っております。今回は、傍聴希望者が3名です。策定会議条例のとおり、本会議では

傍聴を認めております。よろしく申し上げます。それでは、議事に移らせていただきます。「西脇市教育振興基本計画の策定について」ということで、最初に、パブリックコメントの結果について事務局より説明いただきます。

（事務局から説明）

<会長>

説明が終わりました。何かご意見やご質問のある方はお願いいたします。ご意見等ないようですので、事務局説明のとおりとさせていただきます。

<会長>

続いて、用語解説についてに移ります。事務局より説明いただきます。

（事務局から説明）

<会長>

ありがとうございました。測定指標についてでした。一般的に測定指標は3種類あります。1つ目は、研修のような活動指標です。2つ目は、結果として子どもたちがどうなったかというような成果指標です。3つ目は、それによって市民にどのような影響を与えたかという影響指標です。ですので、そういった種類の測定指標の中で、ふさわしいものを選んでいただいているということになります。なかなか、教育活動の指標をつくるのは難しいのですが、工夫して入れていただいているということです。1点質問があるのですが、指標の追っかけは、どの程度のスパンで行う予定なのでしょう。毎年行うという認識でよいでしょうか。

<事務局>

教育振興基本計画の検証等についてのところに記載していますが、毎年度、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育に関する事務の点検及び評価の報告を毎年行っています。外部評価委員による評価を6月に実施し、7月の定例教育委員会で協議し、9月の議会で報告を行うような手順で毎年行っております。この流れで行いたいと思っております。

<会長>

ありがとうございます。今回、審議する内容が多岐にわたっております。これまでの会議で積み上げてきたものがベースとなりますが、最後の会議となりますので、ご意見・ご感想をぜひお1人ずつお願いしたいと思います。まずは、教育委員会の外部の方からご意見をいただいて、教育委員会内部の方もご意見がありましたらお願いしたいと思います。

<委員>

最終的には、西脇市教育振興基本計画との兼ね合いもあり、わからない部分もありましたが、振興計画で漏れている内容につきましては、総合計画で期待したいという思いです。

<委員>

内容が難しいところが多く、今回は用語解説もありわかりやすくなっており、少しずつ理解することができました。西脇市で子育てをする上で、さらに良い案になることを期待しております。

<委員>

測定指標についてですが、毎年教育委員会の中で、点検及び評価をしていただいていますし、説明も受けています。このようにして、毎年指標をつくり、測定していただけるということに安心しています。

<会長>

いわゆるPDCAサイクルで回すということですね。ありがとうございます。

<委員>

専門用語が多く出ていて調べるのが大変になるので、用語解説を作っていたことはありがたく思っています。希望を言えば、用語解説に対応するページ数を書いていただけると、よりわかり易いように思います。

<副会長>

今の時代の人達が、これからどうしていくかというプランを作っていくわけですが、問題はこれをどのように実行していくかということだと思います。現場の先生方・教育委員会の皆さん・過去を知っている有識者・地域等の全てに関わるので、いかにして実行していけるかというところが一番大変だと思います。この点につきましては、教育委員会にもリーダーシップを発揮していただいて、実践していける態勢を整えていただきたく思います。また、時代が変わり価値観も変容しているので、ここをどう捉えていくのかということが大きな課題であるように思います。上手く地域・学校とも連携を取って、今後5年間の大きな目標ができたので、取り組んでいただきたく思います。

<委員>

いろいろと意見が出ていたところが反映されて、良かったように考えています。先ほども出ていたとおり、これをいかに実現していくかが課題だと思います。就学前教育を例に挙げると、小学校との連携という部分で職員の体制が違いますが、どう研修を行っていくのかということ、良いことが書いてあるのですが、実際問題どうやって取り組んでいくのかということ等が大事だと思います。12ページの学力調査の指標について、質問があります。今まではA問題とB問題に分かれていましたが、来年度からA問題・B問題の区別がな

くなるということでしょうか。また、指標の数字について、記載されている数字が正答率なのか、人数なのか混同している部分があるので説明していただきたいです。

<事務局>

ご指摘いただいた12ページの学力調査の指標について、対象教科は国語・算数・数学で、小学校6年生と中学校3年生の児童生徒が調査を受けております。上の枠に示してあるのが正答率となります。この正答率について、全国正答率を基準にして数値化し直したという捉え方で見ていただきたく思います。例えば、小学校6年生の国語Aの問題については、91という数値が出てきておりますが、全国平均正答率を100としたときの西脇市の平均正答率の数値となり、全国平均よりも約1割正答率が低い状態であります。これを2023年には100にして全国平均レベルに引き上げたいというのが目標です。この数値が120や130になると更に高いレベルになるのですが、まずはそれぞれの教科の全国平均値を目指すということでありまして。下の表に関しては、タイトルにあるとおり、正答率が40%未満の児童生徒の割合を示しています。例えば、小学校6年生の国語Aの欄を見ると、西脇市の数値に177という数値が出ております。こちらの数値も全国平均を100としたときの、西脇市の正答率が40%に満たない児童生徒の割合を表す数値となっており、全国平均と比較して、その割合が7割ほど多いことを示しております。この数値を下げていき、全国平均と同じ割合に抑えていきたいと考えています。教科によって数値は違うので、少しの頑張りでも全国平均にとどく教科もありますし、平均と大きく離れており力を入れて取り組まなければならない教科もあります。そういった見方で見ていただきたく思います。もう1点の質問で、来年度から学力調査について、英語等の教科が反映され、教科のA・Bという区分がなくなり1つの教科にまとめるかたちになる場合があります。そうなった場合の対応の仕方はこの中で明記しておりませんが、変更があった場合はそれに基づいて、同じように指標を作成することは可能ですので、同じ見方で、継続して数値を上げていきたいと思っております。

<会長>

ありがとうございました。全体的に全国平均に近づけるといって、正答率4割を下回る児童生徒数を少なくするというものでした。また、学力調査の教科が変わっても、同じ観点で評価を行うとのことでした。他の市にあまりない良い指標のように感じます。

<委員>

私も全国学力調査のことが一番気になっていたもので、先程の質疑で内容がよくわかりました。西脇市も5年、10年と時が経ち教職員の年齢構成がかつてないような状態になっており、教育現場の変わり目だ

と感じております。このような計画が決定する場所に来させていただいて、改めて何らかのかたちで、決定した計画に沿って教育が出来ているか確認・共有しあう場をつくりたいと思いました。数値目標や測定指標がありますが、手段が目的化する傾向もありますので、そのあたりは、我々がリーダーシップをとって防ぎたいと思います。

<委員>

先ほども話がありましたが、測定指標というのは、就学前教育では非常に難しい部分があります。もちろん具体的な数値は出さなければいけないと思いますが、その点ばかりにとらわれないように気を付けていかなければならないように思います。幼児教育センターをバックアップをしながら、幼稚園と小学校のつながり等をしっかり行っていきたいと思います。

<会長>

ありがとうございました。測定指標について中心に意見・感想をいただきました。測定指標をつくることのメリットは3点あります。1点目はPDCAサイクルを回し、出来たこと・出来なかったことを振り返り、反省点をわかり易くできる点です。2点目は意欲を出して取り組むことができる点です。とにかく頑張ろうではなくて、あと何パーセントというように数値目標に向けて取り組むことができます。3点目は外部の方に対する説明能力があるという点です。具体的な数値を挙げてその数値に向けて取り組むことによって、市民の方々等への説明力が上がります。ただ、ご指摘いただいた通り測定指標が目的化することは望ましくありません。上手に測定指標を活用して、教育にとってプラスにしていきたいと思っています。

<会長>

それでは続けて皆さんから意見・感想をお聞きします。

<委員>

一般市民として、こういったかたちで意見を取り入れていただいているありがたく思います。これからも、一般市民によりわかり易く、相談しやすく、スムーズに対応いただければと思います。いろいろな方々が子どもたちのために考えていただいているということがこの場を通してわかりましたので、他の保護者の方々に伝えていきたいと思っています。ありがとうございました。1点質問があります。パブリックコメントの中に、ワンストップ型という文言の意味がわからないのでご説明いただきたいです。

<事務局>

現在、西脇市では発達支援に関して、健康課・こども福祉課・社会福祉課・教育委員会の4つの窓口で、内容によって担当課が分かれています。内部で連携を取りながらご案内をさせていただいています。

発達支援に関する窓口を1つに集約させ、保護者の方々が発達支援全般の相談が完結できる仕組みができれば良いと考えています。そういった1つの窓口で完結させることをワンストップ型と表現しております。加東市では約5年前に発達支援センターを設け、そちらの窓口で相談が受けられるというかたちになっています。西脇市においてもそういったものを設ける動きで内部調整をしております。福祉か教育のどちらかが主となって窓口を設けるよう考えています。

<委員>

発達支援センターという名前を見て、西脇市にもやっとうこういった施設が出来るのかとありがたく思いました。相談窓口がわからず困っている保護者をたくさん知っているのも、ぜひ作っていただきたいと思えます。

<会長>

ありがとうございました。事務局からも一言ずつ計画についてお話しをいただきたく思います。

<事務局>

保育の質の向上の中で、就学前教育の内容を充実させるために、就学前教育・保育の質の向上委員会というものを上程させていただいております。幼稚園・認定こども園のこれまでの動きを検証した上で、質の向上に取り組もうとしているところですので、そういったかたちで今後も力を入れていきます。

<事務局>

人権意識の高揚を図る人権教育の推進について、3つの指標を挙げています。その中で、「市内では、全ての人の人権が尊重されていると感じる人の割合」は30.3パーセントになります。目標値は42.0パーセントであり、この数値は総合計画での指標でもあります。数値を上げるために具体的に、人権文化を進める市民運動推進強調月間講演会での若年層の参加者増を目指して取り組みたいと思えます。また、参加者の主要満足度がこれまでは「やや満足」でしたが、「大変満足」と回答していただける人の割合を増やせるように考えていきます。

<事務局>

いじめ等への対応の徹底ということで、本日も安全・安心という言葉がよく出ておりましたが、やはり、子どもたちが安心して通える学校園ということが大事になると考えております。その中の測定指標でいじめ認知件数が2018年度は8件、5年後は15件と記載しています。時代の価値観の変化によって、国の方針もあり、積極的に些細なことでも初期段階で認知をして関わっていこうということで、先生方にも協力を仰いでいます。できるだけ本市の教育が積極的に前に進むように取り組んでいきますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

<事務局>

スポーツには今までいろいろな役割があったと思います。地域での人の繋がりや子ども同士の繋がりは一役買っていたように思います。しかし、少子高齢化の波もあり、集まる部門が少なくなってきた、昔と比較して体制が変わっています。生涯スポーツを考えたときに、そういった機会を新たに構築していく必要があるということを考えながら、今回の計画にも取り入れています。また、健康寿命が重要になってくるということで、いかに健康に長生きができるかということに重点を持って、推進していきたいと考えています。

<事務局>

生涯学習というのは言うまでもなく、生涯の学習をいかにして進めていくかということが一番大きな柱でございます。生涯学習の中に、文化・芸術・スポーツ等があり、文化財や図書館にも関わるので、非常に多岐に渡る分野であります。そのため、こういった測定指標を設けて、何をどうすればよいかという点について非常に迷いました。ただ、重点目標の第3に掲げております「生涯学び、人生を豊かに生きられる環境」ということが生涯学習にとって一番大きな目標であると思っていますので、事業だけでなく施設環境も大事になってくると思います。施策の柱としている「人生100年時代を見据えた生涯学習の推進」がいろいろな範囲の中で結果を出していかなければならないと考えていますので、市民の皆さんが学んだことを地域に活かせるように生涯学習を推し進めていきたいと思っています。

<事務局>

給食センターにとっては、子ども達の健やかな成長が一番大事なことでと思っています。測定指標についてもいくつか挙げていますが、その中でも「誰にでも保障される学びのセーフティネット」ということで、エネルギー充足率を満たすということが非常に大事なことでと思っています。エネルギー充足率を満たす献立作りも大事なのですが、残菜が多いと意味をなしません。こういった部分に関して、栄養教諭が学校給食センターで行える食育授業に力を入れて重点的に取り組みたいと思っています。

<事務局>

2点お話しさせていただきます。1点目は、児童生徒一人ひとりの違いを細かく把握してきたいということです。平均点が測定指標を測る指標として挙げられていますが、その点だけにとらわれず、正答率が4割に満たない児童生徒と、点数が上位の児童生徒では目線を変えて、きめ細やかに協力しながら指導を行いたいと思います。また、先ほど話題にも挙げた「いじめ」については、数字にこだわりながら積極的に認知をして、早期に解決したいと思っています。2点目は教職員

の資質の向上についてです。こちらに関してはなかなか点数化することが難しいので、研修会の回数等が測定指標になってきますが、必要な回数や時期を計画的に考え、点検も含めてしっかりと取り組んでいきたいと思っています。また、指導領域についても数値化することは困難です。しかし、特別支援教育等についても、科学的に1つの指導の技術として研究を進めていきます。

<会長>

ありがとうございました。皆様のご意見をお聞きして、特段加筆修正すべき事項はないように思いますが、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

<委員>

2点質問があります。1点目は、41ページの給食センターのところで、「地域の特色を生かして学校・家庭・地域が連携した食育の推進」について、食に対する教育について記載がなく、給食センターの内容ばかり記載されていますが、この内容で問題がないのか疑問が残ります。2点目は、15ページの「伝統や文化等に関する教育の推進」に関して、郷土かるたが最近できたので、この項目に入れてもよいのではないかと思いました。

<会長>

食育と郷土かるたについてご意見をいただきました。その点につきましてはこちらで事務局と調整させていただきたいと思っています。ありがとうございます。

<会長>

続きまして今後の予定について事務局よりお願いします。

<事務局>

資料3に今後の予定等について記載させていただいております。教育振興基本計画策定会議が経過しまして、概ね原案通り承認いただきましたので、3月7日に市議会の文教民生常任委員会にて計画の説明をさせていただくこととなります。また、同時並行になりますが、用語解説を含む一部修正の作業をさせていただきます。パブリックコメント関係につきましては、結果の公表ということで3月8日以降にホームページ等で掲示させていただきます。また、毎年、教育の指針ということで、A3用紙両面1枚で、計画に向けて1年間行う取組を記載させていただいております。今年度につきましても作成させていただく予定です。毎年新年度を目途に公開させていただいておりますので、ご理解のほどよろしく願いいたします。

<閉会挨拶>